

学校経営のポイント

夢・目標に向かい努力する児童・生徒を育む

若井 彌一

“浮いた話の 一つや二つ 今年はあれと 初詣”
“年明けたとて 何がめでたい 呟きながら 屠蘇を酌む”

新年を迎えるにあたり、心境を都々逸で表現すると、こんな感じになる。新しい1年を迎えた。読者の皆さまのご多幸を、心から願うものである。

子どもに夢“野依教授にノーベル化学賞”

暗い話題が多かった昨年であったが、そんななかで名古屋大学大学院の野依良治教授のノーベル化学賞受賞のニュースは実に痛快であった。多くの小・中・高等学校等では、そのニュースを校長講話の素材として採用されたのではないかと思われる。児童・生徒の反応はどうであっただろうか。まだ素材として取り上げていない学校でも、機会を見て、ぜひ一度話題にしてみていただきたい。

ノーベル賞でも「文学」「平和」などの部門の場合には、受賞以前から多くの人々に知られた存在であることが珍しくない。しかし、「物理学」「化学」「生理学・医学」などの部門の場合には、ノーベル賞の対象となって初めて「そんな人（研究者）がいたのか」と知られることがむしろ一般的であろう。

参考までに、これまでにノーベル賞を受賞した人々を掲げておこう（氏名、部門、受賞年、受賞時の年齢、の順）。

湯川秀樹、物理学、昭和24（1949）年、42歳。

朝永振一郎、物理学、昭和40（1965）年、59歳。

川端康成、文学、昭和43（1968）年、69歳。

江崎玲於奈、物理学、昭和48（1973）年、48歳。

佐藤栄作、平和、昭和49（1974）年、73歳。

福井謙一、化学、昭和56（1981）年、63歳。

利根川進、生理学・医学、昭和62（1987）年、48

歳。

大江健三郎、文学、平成6（1994）年、59歳。

白川英樹、化学、平成12（2000）年、64歳。

野依良治、化学、平成13（2001）年、63歳。

目標に向かって努力することの“輝き”

ノーベル賞などという、普通の人には手の届きそうもない話題を持ち出すと、場合によっては、児童・生徒がしらけてしまうかもしれない。

話題の提示の仕方にはそれなりの工夫や気配りを期待したいが、肝心のポイントは、結果としての大きな名誉ある賞の受賞も、永年に及んでの、目標（賞自体が目標ではない）に向かったの地道な努力の積み重ねによってこそ可能だということを見せたい。児童・生徒に自覚させ、ささやかな努力をする意欲を促すということであろう。

そして、なによりも児童・生徒に気づかせたいのは、目標に向かって努力する存在（人間）は、それ自体でそれぞれが輝いているということである。

“早咲きも 遅咲きもみな それぞれに 違いこそあれ 花うつくしき”

新年を迎えた子どもたちに、目標に向かっての努力ある生活のすばらしさを味わわせる取組みに力を注ぎたい。（わかい・やいち＝上越教育大学教授）

キーワードは“教師”と“子ども”！

“読本シリーズ”最新刊 好評発売中

■『発展的学習の指導の手引き』高階玲治編・2100円

■『子どもの学力読本』新井郁男編・2100円

■『指導力不足教員』読本』八尾坂修編・2100円

本紙はホームページでも閲覧できます

http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp

好評研修図書

大好評発売中！

新指導要領と新指導要録下の月別指導実務解説

教育開発研究所刊

学校経営相談 12月号〔全6巻〕No. 4『教育指導・教育評価』B5判230頁・定価2,310円

【好評既刊】No.1「学校の組織・運営」/No.2「生徒指導・進路指導」/No.3「教育課程経営」

研修誌・図書の小社への直接注文は、無料FAX 0120-462-488をご利用ください（24時間受付・即日発送）